

一般廃棄物処理体制の検討に係る民間事業者への サウンディング調査結果の概要

1 サウンディング調査実施目的

碧南市及び高浜市（以下「両市」という。）の一般廃棄物の中間処理（焼却・破碎・選別等）に関して、廃棄物処理施設の広域化（両市及び安城市で統合）は早くても2052年度以降となる見込みの中、両市的一般廃棄物処理施設に関しては民間施設の活用も選択肢のひとつとして検討することとしたしました。

このような背景から両市における一般廃棄物処理体制について民間事業者から広く意見や提案を求め、「対話」を通じて意向等を把握することを目的とし、サウンディング調査を実施しました。

2 サウンディング調査実施スケジュール

参加申込 (エントリーシート・提案書の提出)	令和7年8月18日（月）から 令和7年10月3日（金）17時まで
対話の実施	令和7年10月20日（月）～ 10月31日（金）
サウンディング結果の公表	令和7年12月中旬頃

3 サウンディング調査の参加者

エントリーシート及び調査シート提出事業者数 9社

対話参加事業者数 9社

4 サウンディング調査結果の概要

サウンディング調査の参加者より下記の意見や提案をいただきました。

対話の対象項目	対話概要
想定する処理方式・施設規模	〈処理方式〉 ・ 焼却単独（ストーカ炉方式） 7社 ・ 乾式メタン+焼却方式（ストーカ炉） 1社 ・ トンネルコンポスト方式 1社

	<p>※ほとんどの事業者が破碎施設の併設を想定していました。</p> <p>〈処理規模〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・110t/日から220t/日の間で幅がありました。
事業方式の意向及び処理対象物の種類	<p>〈事業方式〉 ※複数回答あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公設民営方式（D B O） 6社 ・P F I 3社 ・P F I（コンセッション方式） 1社 ・民間委託方式 4社 <p>〈処理対象物の種類〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両市的一般廃棄物のほか、両市以外的一般廃棄物及び産業廃棄物の受け入れを想定している事業者もありました。
事業期間の意向	<ul style="list-style-type: none"> ・事業期間は20年と回答した事業者がほとんどですが、20年以上と回答する事業者もありました。
資源循環やCO ₂ 排出量の削減に資する処理方法等の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物焼却から発生するエネルギーを発電に変えるほか、焼却灰の再資源化や、CCUS技術（メタネーション）の活用の提案がありました。
概算費用	<p>事業費（建設費+維持費）や1tあたりの処理単価は設定条件に不確定要素も多いこと等から参加事業者によって異なりました。</p>
事業継続体制	<p>SPC（特別目的会社）の設立による事業リスクの低減や安定した稼働率を確保するため、他自治体的一般廃棄物や産業廃棄物の受け入れで事業継続性を確保する提案がありました。</p>
行政に期待すること	<ul style="list-style-type: none"> ・週休2日制の推進等により工事期間が長期化する傾向であり、適切な工事期間の確保を希望しています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・機器構成、機器点数、材質などの提案の自由度を上げ、要求水準を上回る合理的な提案に対し柔軟な対応を希望しています。
その他意見	<ul style="list-style-type: none"> ・土木建築費の高騰により過去には建設費とプラント費の対比は 3 対 7 程度であったものが現在では 5 対 5 程度とのことです。 ・近年の急激な物価高騰への対応として工事費や処理費には物価スライド指数活用の検討を希望する声がありました。 ・土木建築費高騰に対する対策のアイデアとして既存施設を活用したリニューアル案についての提案もありました。

5 調査結果を踏まえた今後の方針

民間施設の活用に関する今回のサウンディング調査の結果について、廃棄物処理方式検討委員会の委員の意見を踏まえた上、種々分析し、総合的な見地から、両市の新たな一般廃棄物処理体制の方針をまとめてまいります。